

5回青年部 支部活動者会議 ひらかれる



日刊 動労千葉

83. 6. 30

No. 1378

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七



六月二五日、各支部青年部の役員活動家六〇数名を集めて、第五回青年部全支部活動者会議が開催された。
全支部活動者会議は、8・8パイプライン供用開始とそれに伴う貨車輸送廃止、二期強行攻撃の全面化、そして、動乗制制度改悪、貨物全廃に向けた大合理化攻撃という動労千葉の新たな飛躍をかけた基本路線の貫徹を問う闘いの情勢を前にして、労働運動の原点を再確認し、夏から秋にかけての闘いの体制をうち固めた。



激動の歴史をきりひらいて 進むたくましい青年部運動を ―田中青年部長が基調報告―

会議は、主催者を代表して加田常任委員のあいさつで開会、冒頭、本部を代表して吉岡組織部長、動乗・貨物合理化攻撃の先頭で闘いぬく本部乗務員分科を代表して山口会長、そして革マルによる、6・12デッチ上げ事件に対する許すことのできぬ有罪判決を弾劾し、当局による不当処分策動と闘いぬく篠塚さんから決意と今後の闘いへの方向性が提起された。

三名の決意を受けて報告された基調報告では、
① 歴史の大きな転換点のなかで、労働者が自らの闘いによって歴史を選択していく時代が到来していること。
② 厳しいときこそ、労働運動の原点にかえろう！ 労働運動の目標は、資本家によって握られている政治権力を労働者が奪いとり、体制そのものを変革していくことにある。その基本精神は、不屈・非妥協・実力闘争である。
③ そうした視点から、八〇年代をきりひらく戦略的要衝としての「三里塚・国鉄決戦」の基本路線を、革マルの敵対を粉碎して、断固貫き通すこと。
④ 当面、「パイプライン・二期」「動乗制」を軸に三里塚と国鉄の闘いは全く一つに結合したものととして重大な段階をむかえていること。
⑤ 以上の闘いの核心として「働こう」運動を徹底的に純化して、権力の側に完全に移行し、闘う労働者人民に襲いかかる革マルとの対決があること。
との提起がなされた。
午前中最後のプログラムとして、映画「六〇年安保闘争の記録」が上映された。

「狭山・三里塚・反天皇」

感動的な解放教育の闘い ―意岐部東小・辻岡先生が講演―

続いて、部落解放同盟荒本支部のたかひに連帯し、教師、子供たち、親たちを含む地域ぐるみ学校ぐるみ人間変革！社会変革のたたかいを続けている東大阪市・意岐部東小学校教育者集団を代表して、

辻岡 豊 元教頭先生より講演をうけた。
いわれなき差別に苦しむ部落大衆が自ら作り上げてきた意岐部東小では、一九七六年の開校以来、教師の自己変革をかけた解放教育をとりこんできた。文字を奪われ、教育から切り捨てられてきた部落大衆が自ら文字を奪い返す闘い、文部省の支配・国定教科書に屈服していく中で差別・選別の教育に奉仕していく教師の立場を自己批判的にとらえ直し脱皮していく闘い、差別を憎み真の人間平等の社会をつくり出すためのたたかい！それを「狭山・三里塚・反天皇」の闘いとしてつくりあげてきた苦闘と多数の感動的な報告がなされた。そして、このようすばらしい闘いの前進に恐怖した支配者！文部省・市当局、右翼、反動マスコミ、一部反動分子、国家権力の一体となった弾圧・破壊攻撃（デッチ上げ不当逮捕・起訴・処分攻撃・暴力襲撃、等々）と真正面を闘いぬいている生き生きと感動的な闘いの報告と辻岡先生の燃えるような情熱に、全参加者は心底からの感動と共感をこめて圧倒的な拍手でこの講演を受けとめた。

激動の時代こそ、労働運動の 原則をしつかりとちたてよう ―中野書記長が講演―

中野書記長の講演は、「新たな飛躍をめざす動労千葉の課題と青年部の任務」と題して、自らつくりあげた青年部運動創成のころの話にはじまり、本格的な激動の時代を前にして、民同を軸につくりあげられてきた戦後の日本の労働運動は、まだその発想を転換できないでいる。あくまでも労働者階級と資本家階級の階級対立という敵対たる基本軸をあいまいにしてはならない。原点にたちかえって激動の時代の労働運動の原則をつくりあげよう！ 青年部はその先頭にたて」と問題を提起した。

最後に、中野書記長を含めて、閉会の予定時間もこえて真剣な討論が行われ、参加者全員が今日一日提起された課題を更に深め、自らの決意とするなかで、長田副青年部長が活動者会議全体を通してまとめを提起し力強い団結ガンパローの合唱をもって会議を終了した